

明治後期II菊間・岡田家掛け軸
尾崎紅葉先生筆、印譜、国木田独歩先生筆（担当II高澤恒子）

人宿はあるべくも、往来旅籠（はたご）が大嫌いなれば、いかな不自由の想い致し候ても素人の家に起臥（きが）する

（下段）

①尾崎紅葉書簡
再々御書状遣わされ御厚情の段、感佩（かんぱい）に堪えず候、先便申し上げ候通り、二十四、五日頃出発の都合に致し置き候ところ、突然新聞社よりの依頼にて、秩父地方まで出かけ申すことに相成り、丁度二十四日に発足致し本月一盃（ぱい）遊歴候あいだ御地へ立ち越し候は来月の初めに相成り申し候、折角御待ち下され候に日延べ致し候は、尤（もつと）も不本意に存じ候えども社用なれば是非これなく、その代り来月に入り早々槍が降っても出掛け候ゆえ暫時御猶予成られたく候田舎のことゆえ六々（ろくろく）との仰せ越しに候えども、その田舎が小生の望むところにて、実には御地へ参り候ても旅

が気安く且（かつ）趣味を感じ申し候、御馳走にならんとて旅行致し候にあらねば、決して御構い下されまじく、また小生は大の無遠慮にて驚くべきわがまま者に候あいだ、余り構われぬ方が勝手もござ候、構って下さらいでも独りわがままを致し、気楽にして居り候あいだそれさえ御承知下され候えば御心配は御無用にござ候、いまだ御用には掛けさせられ候えども再三懇ろに御申し越し下され候ゆえ、はや御近付きのようなる心地いたし御頼み申したく存じ候、委細は拝顔の節申し置くべく候。

草々

頓首

二十三日 尾崎紅葉
富井（宗之助）様

市原市菊間

岡田（黒澤）家掛け軸

- ①尾崎紅葉書簡
- ②" 印譜
- ③国木田独歩書簡

平成 30 年 5 月

八幡史学館名所 100 選チーム
市原の古文書研究会

尾崎紅葉(徳太郎)・国木田独歩の掛け軸について

富井宗之助(明治2年生、幼名で逝去)が、
長女、岡田俊(岡田茂生の妻)へ贈ったもの

- ① 尾崎紅葉からの富井宗之助宛の多数の手紙のうち、紅葉が佐渡から帰ったから、印籠の宗之助の家へ伺うという内容の手紙。紅葉は、明治35年頃(金色夜叉執筆中)佐渡から帰ると富井宗之助を訪れる。直向近く滞在、弟子主三人位連れていた。紅葉は印籠沼あたりをよく散歩していた。宗之助は、紅葉が37歳で亡くなるまで、病氣お見舞いに行ったりしていた。
- ② 紅葉の妻、菊子夫人からの印譜。
紅葉の印、全部を紙に押し取ったもの。
- ③ 国木田独歩が水野葉舟に当てた手紙。最中を貰ったお礼に、お饅頭を十箇のうちの幾つかをお返しに差し上げるといいう簡単な内容。

② 尾崎紅葉印譜

富井氏の需(もとめ)に応ず 菊子(紅葉夫人)

③ 国木田独歩書状

すっかり暮れに相成り候、小生はまだ文章世界で苦しみおり候、

先日空也の色紙、最中みな

美味この上なし、小生淡泊党ゆえ

とくにありがたく感じ候、その後さつそく上野

への序(ついで)に少しばかり買わして受用

致し候、饅頭もうまし、

これは昨夜細君が四谷の岡野から

買いたし十箇の中の半分に候えども

甘党の君には万更(まんざら)でもなしと存

じお届け申し候。

(水野)葉舟兄 独歩

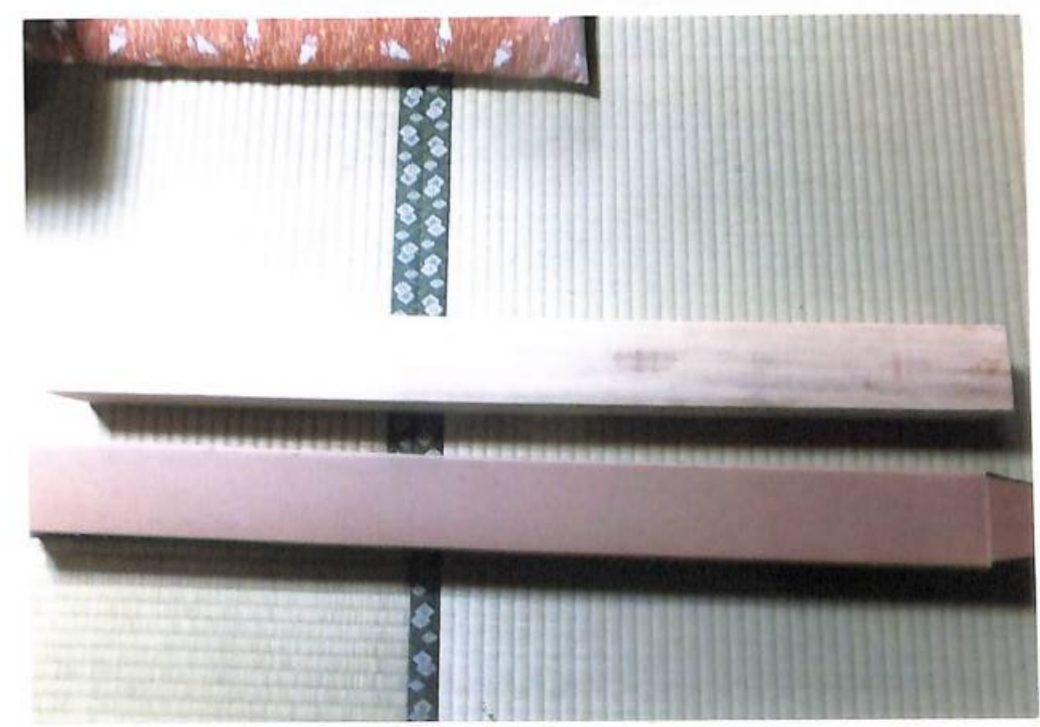
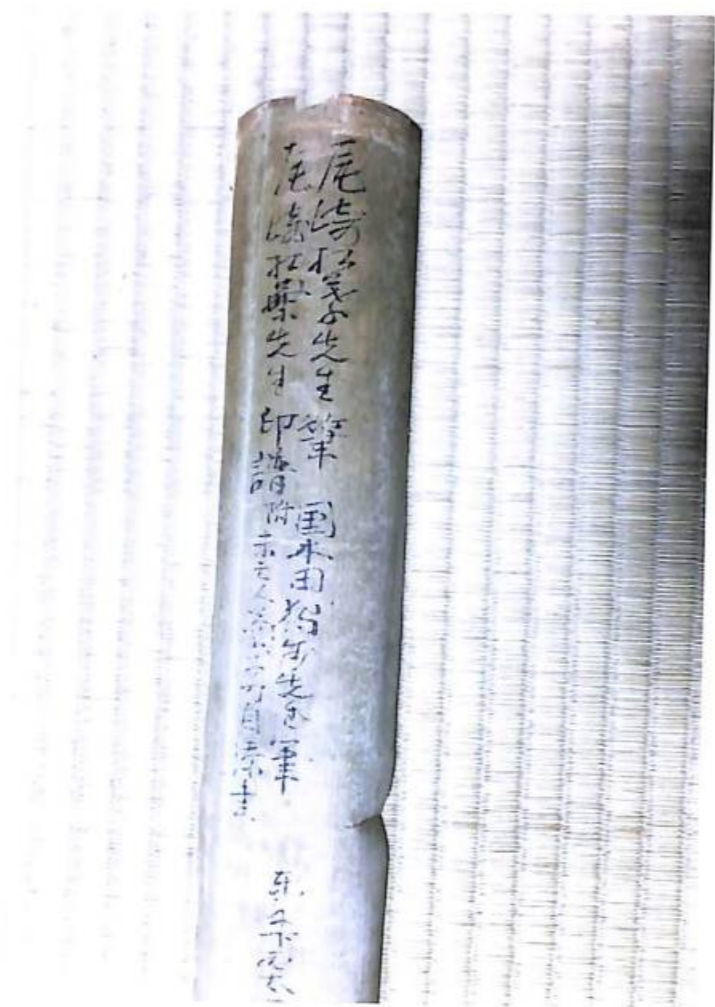
④ 上包み紙

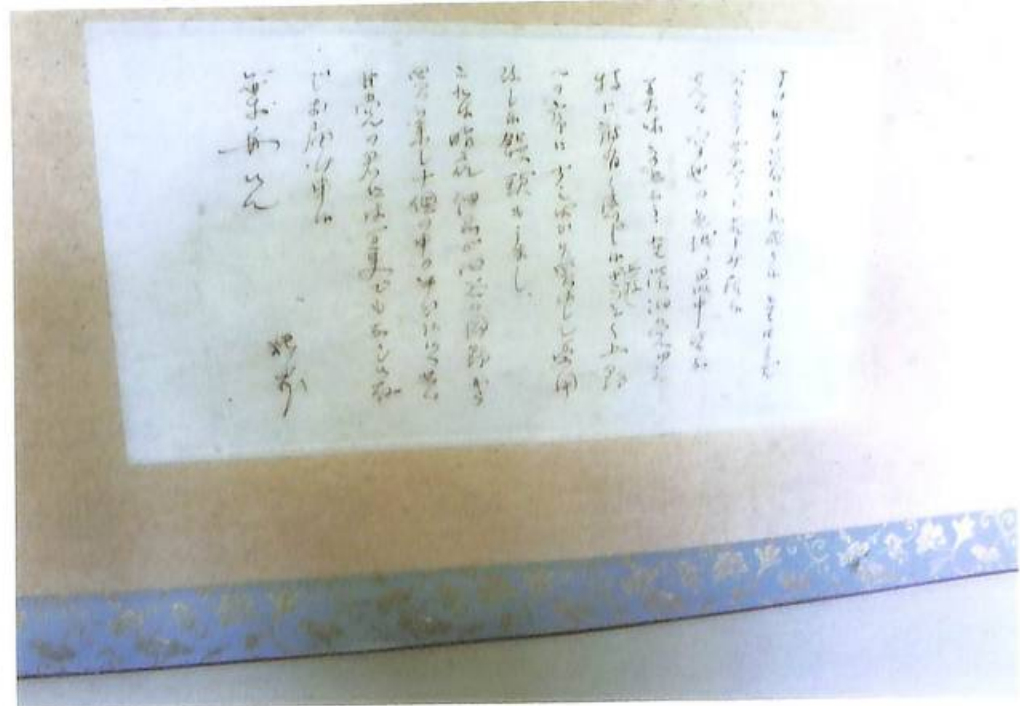
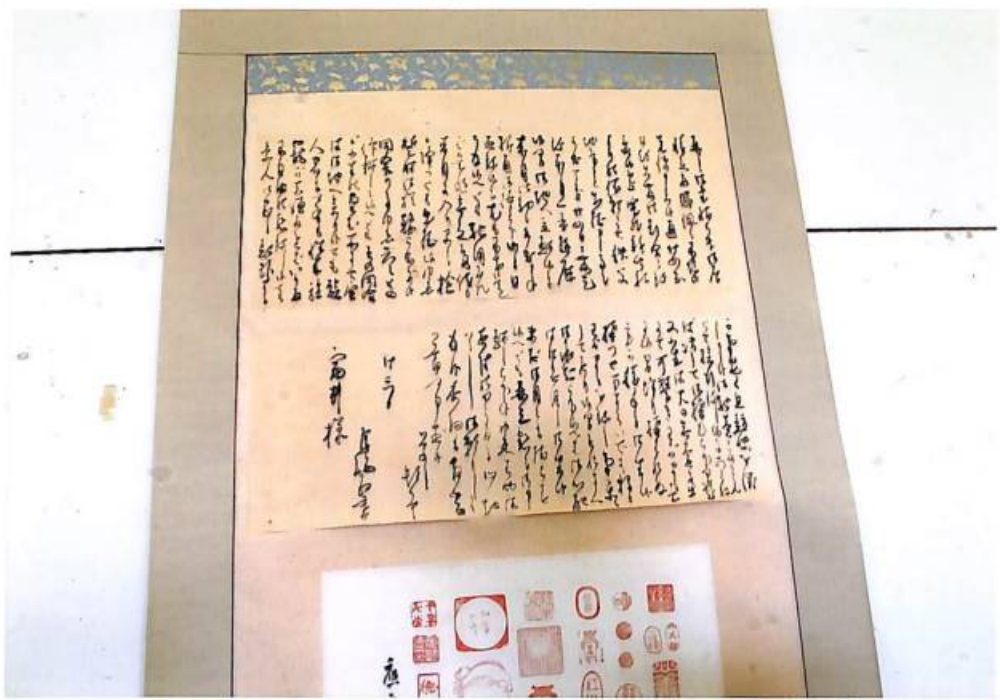
尾崎紅葉先生筆

尾崎紅葉先生印譜

国木田独歩先生筆 東京下谷太田与之製幅
附未亡人菊子刀自添書
時に大正二年十二月 富井氏

⑤ 岡田(黒澤)さんの由来メモ
別紙コピー参照





Handwritten text in vertical columns, likely a preface or introduction, written in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns, continuing the main body of the work.

Handwritten signature and date at the bottom of the main text block.



Small block of handwritten text, possibly a postscript or a separate note, located on the right side of the page.

ついでに...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...